

所内研修⑦「プレゼンテーションの技法」

去る8月18日(火)に上原義仁指導主事を講師に、プレゼンテーションの基本的な技法について確認することで、研究報告会に向けたプレゼンテーションの資料の作成に活かすことを目的として、「プレゼンテーションの技法」と題して、第7回所内研修を行いました。

【研修の概要】

- 1 プレゼンテーションとは、(辞書から)
- 2 プレゼンテーション(研究報告会)までの基本的な流れ
- 3 プレゼンテーション支援ソフトによる資料作成の留意点
 - (1) いいパワーポイント資料の三条件
 - (2) パワーポイント資料作成の基本
 - ①レイアウト ②文・文字 ③図表・線・色 ④アニメーション
- 4 まとめ
- 5 発表の流れ ①「成果」→②「手立て」→③詳細の発表
- 6 実習：パワーポイント資料作成時のちょっとした工夫
 - ①グリッド線等 ②コピー&ペースト ③画像の圧縮 ④肖像権配慮の工夫



写真1 所内研修の様子



教育研究員の感想

講義でプレゼンテーションの技法について、演習を通して作成時の工夫について学ぶことができました。これまで図形を取り入れる時に自分の感覚で配置をしていましたが、グリッド線やルーラーを使用することで図形の位置をきれいに揃えることができるということを初めて知りました。また、画像(写真)の圧縮仕方や写真を使用する際のぼかしの方法も知ることができ、幼稚園の研究発表では写真を活用する機会が多いのでこれからパワーポイント資料を作成するときに活用していきたいと思います。プレゼンテーションの際は簡潔で判り易く説明すること、的確に伝えることが大切だということをお教えいただいたので、まず、自分が伝えたいことは何かを考えて原稿やパワーポイントの作成を行っていきたくです。報告書の原稿もそうですが、読み手・聞き手という相手を意識して分かりやすく伝えていけるように工夫をしていきたいと思っています。(金城さくら)

いいパワーポイント資料作成の三条件として①正確さ、明確さ、効率化②印象深さ③見る側の負担を最小限に抑ええることが大切であると考えています。

パワーポイントにはいろいろな機能があるにしても基本的に「何を伝えたいか」ということをしっかり押さえること、「何を伝えたいか」ということがはっきりしていると「どう伝えるか」を考えることができ、その後の計画が立てやすくなるので、まずは「何を伝えたいか」を明確にするようにしたいと思います。(大城厚)

報告会に向けてのプレゼンテーションの技法について、大事なポイントを講話していただきました。印象に残ったのは、用意した資料を説明するのではなく、資料を用いて説明することの大切さであり、大切なポイントは「情熱」と「口舌」だということでした。これまで3分間スピーチや大切な話などのスピーチ等で積み重ねてきた練習を活かせることができればと思います。さらに、スライドでは、読ませるのではなく、見せる(魅せる)ための工夫を図り、ぱっと見て分かりやすいかどうかで、説得力に影響するそうです。研究のまとめとして、何を伝えたいのかを整理し、分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかを考えながら、スライド作りに取り組んでいきたいと思っています。研究の成果は自分の中に留めておくのではなく、多くの人に情報提示することで、研修の成果や学びを還元できればと考えます。さらに、操作の実習も行うことで、効果的な機能の使い方を学ぶことができ、自信をもって資料づくりに取り組めます。(長門照乃)

今回は、来月の発表に向けてのスライド作成にもなるので、今一度発表のためのスライド作成とは何なのかをもう一度考える機会になりました。はじめの「パワーポイントがプレゼンテーションをだめにする」という話はとても衝撃的でした。なぜなら、私は、一度スライドを作り始めるといつの間にか夢中になってしまい、ごちゃごちゃしたスライドになってしまい、今日の話聞きながら、見る側にとって目が疲れるスライドになっていたかと思うと申し訳ない気持ちになりました。聞き手の立場を考え、何を知らたいのかをしっかりと考えながらも私が伝えたいことをしっかりと整理しながら話の流れを考えないといけないと思いました。実習では、写真のぼかし方や画像の圧縮の仕方を実際に行うことができたので、これからのスライド作成にしっかり活かしていきたいと思っています。(具志堅智美)

今までに、いろいろなところでパワーポイントを使ってプレゼンをしてきましたが、自分の反省点として、アニメーションの多用があげられます。最初から見せず、その時になって見せるためにアニメーションを使っていましたが、今日の研修で、読む側にとっては疲れてしまうものなんだということが分かりました。本番では、自分が一番最後に発表をすると思うので、見る側の負担も考えてアニメーションや色使いを考えていきたいです。

また、プレゼンテーションを支援するものがパワーポイントだということも忘れず、何を自分は伝えたいのか、どのような構成で発表するのかをじっくり考え、今までのスライドをもとに組みかえていこうと思います。(古屋誠一)